

28P-am07

改訂コアカリ実務実習における薬局・病院-大学の連携の在り方を探る～指導薬剤師と教員が考えるワークショップからの提案

○中村 智徳¹, 岩田 紘樹^{1,2}, 鈴木 小夜¹, 横山 雄太¹, 地引 綾¹, 小林 典子¹, 藤本 和子¹, 山浦 克典^{1,2} (慶應大薬,²慶應大薬局)

【目的】改訂コアカリに準拠した実務実習のポイントとして、「薬局-病院-大学間の連携」が挙げられる。本学では効果的な連携の在り方について指導薬剤師と教員とが一緒に考え、実行可能な連携案の提案を目的にワークショップ(WS)を開催しており、昨年度年會に引き続き、より良い連携に向けた意見や具体的なアイデアについて報告する。

【方法】2017年9月10日、慶應義塾大学薬学部にて、本学薬学部生の受入れ実績のある薬局・病院の指導薬剤師および教員合計41人により、ワールドカフェ形式のWSを行い、改訂コアカリ実務実習のための効果的で実行可能な連携案を抽出した。1グループ4～5人で9テーブルの構成とし、2ラウンド各20分間の討論を行った。各ラウンドのテーマはそれぞれ「改訂コアカリに期待していること」および「改訂コアカリで問題と感じていること」とした。第2ラウンド終了後、実務実習WEB管理システムに導入予定の連携に関わる機能に関して話題提供後、1グループ6～7人で6グループを構成し、「より良い連携に向けた取り組み」について討議を行い、最後に討議内容を発表して情報共有した。

【結果・考察】「良い連携」のための提案としては、以下の2つに集約された。

1. 実習開始前に情報共有・情報交換を目的とするFace to Faceの交流会を大学主催で開催し、あらかじめ連携体制を構築する。6グループ中4グループから提案された。
2. 薬局実習終了後、薬局から病院への評価および実習内容の引継ぎを行う。そのため、WEBシステムを活用し、ルーブリック評価を相互に閲覧できるようにすることが望ましい。同様の提案は6グループ全てから挙げられた。

自由記述では、他施設および大学教員との情報交換の重要性が多く挙げられた。今後は本WSでの提案に関するトライアルを通じ、その有用性と実現性を検証し、薬局-病院-大学間の効果的な連携を目指す。